

平成30年度 施策評価シート

基本目標	V	区民と区が協働で「すみだ」をつくる
政策	540	多様な主体が参加する区政のしくみをつくる
施策	542	区政への参加を広め、公正・公平で効率的な行財政運営を推進する
施策の目標	区民や事業者は、協治(ガバナンス)によるまちづくりの主体として積極的に区政に参画し、地域の課題解決に取り組んでいます。区は、新たな課題に対応するため行政のスリム化並びに「選択と集中」により、一層の効率的な行財政運営を進めています。	

1 基本計画における成果指標の状況

指標名	「区と一緒に、区の事業やイベントなどを企画したり、実施したことがある」区民の割合									
	基準年 (H28)	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37
目標	9.5				20.0					30.0
実績										
指標名	区政全般に対する区民の満足度の点数									
	基準年 (H28)	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37
目標	57.4				65.0					70.0
実績										

2 目標と現状(実績)についての分析及び総事業費推移

指標の推移・施策の課題や問題点について記述	総事業費推移 (千円)	
多くの区民等にすみだに対する愛着や親しみを深めてもらうとともに、地域の声が区政に反映しやすくなるような仕組み等を構築することにより、主権者意識を高めていく必要がある。また、本施策目標の達成にあたり、区と区民等による協働を担う人材育成は喫緊の課題のため、今後積極的に取り組むことにより、区政参加の拡大につなげていく。	H28	6,151
	H29	6,411
	H30	

3 施策の評価及び判断理由

評価	理由
C	タウンミーティングにおいて、区民等と意見交換した取組内容等について、区政へ反映できるような仕組みづくりを構築する必要がある。

4 今後の施策の運営方針

一次評価	最終評価	施策の戦略的方向性
		(1) 優先的に資源投入を図る。
○		(2) 現状維持とする。
		(3) 現状維持だが、より効率的な運営を図る。
		(4) 資源投入の縮小を図る。
【上記の判断理由】		
今後、事業内容を検証し、効率的なタウンミーティングの運営やコスト改善に向けた事業の見直しを行う必要がある。		
【今後の具体的な方針】		
地域力日本一に向けて、区民主体のタウンミーティング等の実施を通じて、協治・協働によるまちづくりを進めるとともに、区民等が積極的に地域の課題解決に取り組むような人材育成を行う必要がある。		

5 この施策に係る事務事業（重要度・貢献度順）

番号	事務事業名	歳出 決算額 (千円)	人コスト (千円)	歳出 総額 (千円)	施策への関連性	目的に対する指標	
						年度目標値	直近の評価内容
						年度実績値	評価結果
							評価対象年度
1	タウンミーティングの企画運営	354	8,881	9,235	本事業は、区長との直接対話の場を通じて、参加者の地域に対する親しみや愛着を深めてもらうとともに、区政への参加機会を創出することにより、区と区民等との協働の実現を図るものである。	70	改善・見直し(効果測定)
						93	平成29年度
2	区民交通傷害保険	6,057	8,881	14,938	高齢者、障害者等にとって煩雑な保険契約を、身近な町会・自治会から団体加入する機会を創出。また、出張所で受付を行うことにより利便性向上を図り、区民の保険加入に係る公平性を担保する。	29000	改善・見直し
						27974	平成29年度
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							

平成30年度 事務事業評価シート

施 策	542	区政への参加を広め、公正・公平で効率的な行財政運営を推進する	部内優先順位					
事務事業	タウンミーティングの企画運営					1		
事業概要	「暮らし続けたい」「働き続けたい」「訪れたい」まち実現に向け、区民と区長との直接対話の場を提供し、区民の意見・提言を今後の区政運営の参考とするとともに、協治（ガバナンス）によるまちづくりを推進する。					主管課・係（担当）		
						地域活動推進課まなび担当		
						03-5608-6202		
施策への 関連性	本事業は、区長との直接対話の場を通じて、参加者の地域に対する親しみや愛着を深めてもらうとともに、区政への参加機会を創出することにより、区と区民等との協働の実現を図るものである。							
必要性・ 妥当性	区民のニーズ 昨年度行ったタウンミーティングのアンケートでは、区長との対話により、「区の前向きな取組姿勢」や「区長の人柄」などが明確に伝わり、有意義だったとする声のほか、今後の継続開催を望む声も多く、一定の需要はあると考える。							
	代替可能性の状況（区が実施する必要性等） 区長との日程調整のほか、テーマに応じた他部署との細かい調整が必要であるため、区が実施することで効率的に進めることができる。							
有効性・ 適格性	手 段 に 対する指標 (活動指標)	指 標	タウンミーティング参加者数				単 位	人
		最終目標値	目標年度	基 準 年 (H28)	H29	H30	H31	
		1600	H37	目 標	250	250	250	
				実 績	250	149		
			H32	H33	H34	H35	H36	H37
		目 標	250	250	250	250	250	250
	実 績							
	指標の選定理由及び目標値の理由 本事業への参加者数を高めることが、多様な区民による区政への関心のバロメーターとみることができるため。							
	目 的 に 対する指標 (成果指標)	指 標	参加者が区政に対し「親近感を抱いた」と回答した割合				単 位	%
		最終目標値	目標年度	基 準 年 (H28)	H29	H30	H31	
80		H37	目 標	65	70	70		
			実 績	65	93			
		H32	H33	H34	H35	H36	H37	
目 標		75	75	75	80	80	80	
実 績								
指標の選定理由及び目標値の理由 参加者の区政への関心や理解が成果としての指標に合致するため。								
財 政 面 〔決算額〕 (単位：千円)	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
	392	354						
	H35	H36	H37	〔予算の傾向〕 各科目において多少増減はあるものの、全体的にはほぼ横ばいとなっている。				

1 必要性・妥当性								
区民ニーズの有無	ある							
代替可能性の有無	ない							
区が実施すべき強い理由があるか	ある							
判断理由								
必要性・妥当性は十分にあり、幅広いテーマで実施する必要がある。								
2 有効性・適格性								
事業の目的が施策に合致しているか	合致している							
指標は目標値を満たしているか	満たしている							
かけたコストに対し十分な成果があるか	ある							
判断理由		必要性 妥当性	有効性 適格性	効率的 経済性	評価結果			
施策目的に直結した事業であり、費用対効果も高く、継続して実施すべき事業であると考える。		5	5	5	5			
3 効率性・経済性		<p style="text-align: center;">現状維持の上継続</p>						
目的・対象が類似する事務事業はないか	ない							
実施工程やコストに改善の余地がないか	ない							
地域社会やその他住民への波及効果があるか	ある							
判断理由								
区が実施することで、会場使用料、企画運営委員会立ち上げ時の委員（ガバナンス・リーダー修了生等）に対する謝礼のコストは大分抑えられている。今後、より広く周知していくため、運営面での改善を検討する必要がある。								
中間・最終年度の講評	平成27年度から各種テーマを設定し、実施してきた。参加者からは、地域課題に対する区の積極的な取組姿勢を評価する声のほか、次回開催を望む声も多く、実施意義は大きい。							
今後の方向性	協治によるまちづくりの実現に向け、多様な区民による区政への参加を促進するため、その時々課題となるテーマ設定を行い、イベント等へ出張し対話を行うなど、新たな切り口でのタウンミーティングを実施していく。							

施 策	542	区政への参加を広め、公正・公平で効率的な行財政運営を推進する					部内優先順位	
事務事業	区民交通傷害保険事業					2		
事業概要	23区が共同で行っていた共済事業（交通災害共済）が平成13年度に廃止、代替制度として平成14年4月に民間保険会社と契約、10区で区民交通傷害保険事業を開始。平成18年度から、自転車賠償責任プランを追加。平成30年度から、世田谷区が加わり11区で実施。毎年度2,3月に翌年度の募集を行う。					主管課・係（担当）		
						地域活動推進課地域活動推進担当		
						5608-6196		
施策への 関 連 性	高齢者、障害者等にとって煩雑な保険契約を、身近な町会・自治会から団体加入する機会を創出。また、出張所で受付を行うことにより利便性向上を図り、区民の保険加入に係る公平性を担保する。							
必要性・ 妥当性	区民のニーズ							
	加入者は毎年3万人弱あり、町会・自治会による団体加入率も7割（116/170団体）程度あるため、一定のニーズはある。							
	代替可能性の状況（区が実施する必要性等）							
	少額の保険料、年齢制限などの条件がなく、容易に加入しやすい事業であるため、実施する必要性は一定程度ある。							
有効性・ 適格性	手 段 に 対する指標 (活動指標)	指 標	加入者数				単 位	人
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		29,000		目標	29,000	29,000	29,000	28,000
				実績	28,964	27,974		
			H32	H33	H34	H35	H36	H37
		目標	28,000	28,000	28,500	28,500	28,500	29,000
	実績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	賠償責任の最高保険金額が30年度から1億円になったことで、自転車賠償責任プランを主目的とする加入者の増加、また団塊世代の高齢化も進んでいるため、安全・安心を担保にした加入者数の増も見込まれる。							
	目 的 に 対する指標 (成果指標)	指 標					単 位	
最終目標値		目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31		
			目標					
			実績					
		H32	H33	H34	H35	H36	H37	
目標								
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
財 政 面 〔決算額〕 (単位：千円)	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
	5,810	6,057						
	H35	H36	H37	〔予算の傾向〕 個人加入者の増減により見直しをするも、消耗品の高騰にともない増加傾向にある。				

1 必要性・妥当性					
区民ニーズの有無	ある				
代替可能性の有無	不十分				
区が実施すべき強い理由があるか	必須だが裁量余地あり				
判断理由					
年額保険料が民間商品の概ね月額程度で少額であること、年齢制限がないなど、加入しやすいものとなっている。					
2 有効性・適格性					
事業の目的が施策に合致しているか	合致している				
指標は目標値を満たしているか	満たしていない				
かけたコストに対し十分な成果があるか	ある				
判断理由		必要性 妥当性	有効性 適格性	効率的 経済性	評価結果
年間500～600件、3000～3500万円の保険金が支払われている。例年、コストのほとんどを引受保険会社からの事務取扱費で回収できている。		3	4	4	4
3 効率性・経済性		改善・見直しの上継続			
目的・対象が類似する事務事業はないか	ない				
実施工程やコストに改善の余地がないか	ある				
地域社会やその他住民への波及効果があるか	ある				
判断理由					
コストの改善については、周知方法等に検討の余地はあるが、引受保険会社や実施している他区とのすり合わせに時間を要す。					
中間・最終年度の講評	保険料が安価で払い切りと手軽ではあるが、万が一の場合に補償が得られ、町会・自治会からの加入者も多いことから、区民ニーズは高く実施意義は大きい。				
今後の方向性	今年度から世田谷区が実施区に加わるなど、自転車事故、保険への関心は高まりつつある。この事業をより町会、自治会にPRすることにより、保険加入を機会に若年層の町会への理解や町会への加入促進のきっかけとしていただくなど、相乗効果を図りたい。				